

編集後記

好奇心に支配されている私は、最先端の技術を試したいばかりに、この一年いろいろなものに手を出してきた。一番のヒットが、全世界対応SIMカードである。一枚のSIMカードでほとんどの国で使える。そこまでは、もはや普通の話で、ここからがすごい。私が目つけたのは、ある国のSIMカード。その内容は、その国のパケット使い放題+他国どこでも一ヶ月5ギガまで使えるというもの。そして、価格は日本円で3,500円。

現代では、経営を専門にしている私ですら、ちょっと現場から目を離したら、新しいイノベーションから置いてきぼりにされる。去年の編集後記には、デジタル・ガジェットの進歩がもたらす研究環境について書いた。iPadの進化やGlassesのパソコン化である。そうしたら、私の予想を遥かに上回る機能をもつVR Glassesの開発が佳境に差し掛かってきたとの情報も入っている。

しかし、全世界5ギガ使用可能+当該国パケット無制限+通話実質無制限(1ヶ月)で3,500円というインパクトに、私の好奇心のすべてを持っていかれた。このサービスがもたらす影響は計り知れない。もはや、日本の携帯電話会社で契約する人はいなくなる。たとえば、現在、日本の大手キャリアは、7ギガ+通話料無料で、7,500円ほど。そうなると、全世界SIMカードを他国で買い、日本および海外使用を5ギガとして、契約国で無制限、電話は050インターネット通話で済ませれば、日本の携帯電話会社の半額となる。経営に国境はないが、電波にも国境はない。東京テレメッセージがそうであったように、ある日突然、イノベーションは現れ、一瞬にしてすべてを変える。携帯電話会社は、NTTがそうであったように、近い将来には回線管理会社になると思われる。つまり、同形態事業であれば、サービスやプライスにも、国境がなくなるという時代が本格的に到来した。

さて、本誌に投稿いただきました著者の皆様に、編集責任者として感謝申し上げます。今後、私たちの研究も、デジタル・ガジェットの進化とソフトウェアの進歩、そして基幹インフラのイノベーションにより、ますますこの国にいても、コストを掛けずに効率的にすることができるようになると予想されます。こんなことを想像すると、来年はどんなデジタル環境で、どんな論文を掲載できるかも楽しみです。今年度で、編集責任者の任をおりますが、本誌国際経営フォーラムが長きに渡り発行され、発展していくことを切に願っています。

編集委員長 小島 大徳